http://decfamily.p1.bindsite.jp/2013NEW/

We 25R

No.221　03/06/17

# 自分の力の自覚

前に担任をしていた時、私のクラスは合唱祭で総合優勝をした。その時のことは、１年生の時の学級通信に書いた（裏面参照）。

そこに書いたように、このクラスは２年生の時は学年７位で、しかも、１年から３年までの得点をそのまま並べた時に、１年生の新人賞のクラスよりも得点が低かったというクラスである。クラス替えがないことを考えると、普通、翌年優勝することなどは考えられないだろう。でも、実際それを前のクラスはやってのけたのである。立派なことだと、今でも誇りに思う。

＊

合唱祭に関しては、体育祭以上に、練習すればするだけ成果は現れると思う。しかし、３年生ともなればどのクラスだって練習を重ねてくるわけだから、おいそれと逆転できるはずがない。学年集会の時に、みんなで「進路の手引き」の合格体験記の読み合わせをしたが、その中であの体験記を書いた先輩は、「１・２年の時に（部活その他で）あまり勉強しなかった人が、３年でがんばって逆転しようとしても、元から頑張っている人は、３年になったら更に頑張るようになるから、実際に逆転することはかなり難しい」と書いていたが、合唱祭も全く同じである。

だから、ガンバロウとする気持ちに結果がついてこなかった時、生徒たちはどう思うのだろうかと、担任としてはそれなりに心配していたのである。

結果として、優勝することができて本当によかったのだが、だが、どうしてそういう結果を得ることができたのかを考えてみると、実は歌唱力以上に大切な要素があったのではないかと思うのである。

確かに歌唱力は大切だし、これがなければ総合優勝などするはずがない。歌い出し、正確な音程・リズム、ブレス、そして、歌詞の理解に基づく正確な歌の表情…。そういう基本ができていなければ、専門家の審査委員がいい点をつけるはずがないからである。

私にはそういう音楽的な観点からの評価は分からないしできないが、私にも分かる一年前との違いは、通信に書いたとおり、「去年頑張ってくれた合唱祭委員のために、今年こそはリベンジしよう！」という、クラス全員の強い思いであった。２年生の時も、敢闘賞目指してがんばろうとそれなりに努力していたとは思うが、まだまだ合唱祭委員任せの部分が多く、部活や個人的な都合を言い訳にして、気持ちが一つになりきれていなかった部分があった。それが、１年間同じクラスで過ごし、友人のことを互いに理解しあい、そして、互いに高め合っていこうと思った時に、その一つの表れとして、合唱祭が大きな結果に結びついたのだろうと思うのである。

＊

優勝したから素晴らしいというのではない。優勝を目指す過程で一人一人が自分の力を自覚し、自分の力がクラスに貢献していることに気づいたことがスゴイと思うのである。歌が下手な人も譜面が読めない人も、みんながクラスに貢献しているのである。その自覚こそが、結果を招き寄せたのある。